

私たちの町の遺跡

二本木発掘物語

■第4話「延命寺の礎石」

二本木3丁目の路地（新築マンションの裏）には延命寺跡観音堂と呼ばれるお堂があります。お堂の前には、丸い穴のあいた大きな石が置かれています。この石はお寺の塔に使われた礎石で、丸い穴に塔の真ん中の柱を建てていたものです。

みなさんも法隆寺の五重塔などをご覧になったことがあるでしょう。あのような塔が二本木遺跡にも建っていたのです。もちろん、この礎石はもともと地中に埋めてあったはずですし、離れた場所にあったのだとも言われています。延命寺は、奈良時代の有名な僧である行基が建てたとも伝えられていますが、どんなお寺だったかはよくわかっていません。

二本木遺跡からは奈良時代から平安時代の瓦がたくさん見つかります。当時の瓦は、役所やお寺にしか使われていませんでした。礎石や瓦から、このあたりに塔を備えた立派なお寺があったことがわかります。塔の高さは、数十mはあったでしょう。二本木遺跡のシンボルタワーです。

熊本市文化振興課埋蔵文化財調査室 金田一精氏
塔の礎石（塔の真ん中で柱を支えていた基礎の石）



二本木遺跡のシンボルタワー
何十メートルあったんだろう

